

この申立書の写しは、法律の定めるところにより、申立ての内容を知らせるため、相手方に送付されます。

受付印		<input checked="" type="checkbox"/> 調停 <b>家事</b> 申立書 事件名 (特別の寄与に関する処分) <input type="checkbox"/> 審判
収入印紙 円 予納郵便切手 円		(この欄に申立て1件あたり収入印紙1,200円分を貼ってください。) <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px; margin: 10px auto; text-align: center; line-height: 100px;">印紙</div> (貼った印紙に押印しないでください。) <div style="text-align: right;">準口頭</div>

○ ○ 家庭裁判所 御中 令和 ○ 年 ○ 月 ○ 日	申立人 (又は法定代理人など) の記名押印	甲 野 花 子	<div style="border: 1px solid red; border-radius: 50%; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="color: red; font-weight: bold;">印</div> </div>
-----------------------------------	-----------------------------	---------	---

添付書類	(審理のために必要な場合は、追加書類の提出をお願いすることがあります。) <b>戸籍(除籍・改正原戸籍) 謄本・全部事項証明書 ○通</b>		
------	---	--	--

申立人	本籍 (国籍)	<small>(戸籍の添付が必要とされていない申立ての場合は、記入する必要はありません。)</small> 都道 ○○ 府県 ○○市○○町○番地	
	住所	〒 ○○○ - ○○○○ ○○県○○市○○町○番○号	
	フリガナ氏名	コウノハナコ子 <b>甲野花子</b>	( 方) 大正 昭和 ○ 年 ○ 月 ○ 日生 平成 令和 ( ○ 歳)
相手方	本籍 (国籍)	<small>(戸籍の添付が必要とされていない申立ての場合は、記入する必要はありません。)</small> 都道 ○○ 府県 ○○市○○町○番地	
	住所	〒 ○○○ - ○○○○ ○○県○○市○○町○番○号	
	フリガナ氏名	コウノジロウ郎 <b>甲野二郎</b>	( 方) 大正 昭和 ○ 年 ○ 月 ○ 日生 平成 令和 ( ○ 歳)

(注) 太枠の中だけ記入してください。

※ 相手方	本籍	(戸籍の添付が必要とされていない申立ての場合は、記入する必要はありません。) 都道 府県 〇〇 〇〇市〇〇町〇番地
	住所	〒 〇〇〇 - 〇〇〇〇 〇〇県〇〇市〇〇町〇番〇号 ( 方)
	フリガナ氏名	コウノ サブロウ 甲 野 三 郎 大正 昭和 〇 年 〇 月 〇 日生 平成 令和 ( 〇 歳)
※ 被相続人	本籍	(戸籍の添付が必要とされていない申立ての場合は、記入する必要はありません。) 都道 府県 〇〇 〇〇市〇〇町〇番地
	最後の住所	〒 〇〇〇 - 〇〇〇〇 〇〇県〇〇市〇〇町〇番〇号 ( 方)
	フリガナ氏名	コウノ ハルコ 甲 野 春 子 大正 昭和 〇 年 〇 月 〇 日生 <b>死亡</b> 平成 令和 ( 歳)
※	本籍	(戸籍の添付が必要とされていない申立ての場合は、記入する必要はありません。) 都道 府県
	住所	〒 - ( 方)
	フリガナ氏名	大正 昭和 年 月 日生 平成 令和 ( 歳)
※	本籍	(戸籍の添付が必要とされていない申立ての場合は、記入する必要はありません。) 都道 府県
	住所	〒 - ( 方)
	フリガナ氏名	大正 昭和 年 月 日生 平成 令和 ( 歳)

(注) 太枠の中だけ記入してください。※の部分は、申立人、相手方、法定代理人、不在者、共同相続人、被相続人等の区別を記入してください。

この申立書の写しは、法律の定めるところにより、申立ての内容を知らせるため、相手方に送付されます。

申 立 て の 趣 旨

相手方は、申立人に対し、特別寄与料として、それぞれ相当額を支払うとの調停を求めます。

申 立 て の 理 由

申立人は、被相続人甲野春子の長男甲野太郎の妻であり、相手方甲野二郎は二男、甲野三郎は三男になります。

申立人は、甲野太郎と婚姻すると同時に、被相続人の希望もあったことから、甲野太郎とともに被相続人と同居を開始しました。

被相続人は、平成〇年〇月ころから、寝たきりの状態になり、家族による介護が必要になったため、申立人は、当時、勤めていた会社を退社し、同月〇日から被相続人が亡くなるまでの間、無償で、被相続人の療養看護を行ってきました。

被相続人は令和〇年〇月〇日に死亡し、申立人は、同日、相続が開始したこと、相手方が相続人であることを知りました。

そこで、申立人は、相手方らに対し、療養看護をしたことによる被相続人の財産の維持、増加に対する申立人の特別の寄与を主張し、特別寄与料として、それぞれ相当額を支払うよう相手方らに協議を申し入れましたが、相手方らはこれに応じないため、本申立てをします。